



禅海和尚の人道力 全開

「人馬往来、命の為に30年掘った」大分・耶馬溪の青の洞門

こんにちは、こんばんは、おはようございます。心が風邪をひいたわたしも、まだひいていないあなたも、みんなが集えるミニコミ誌『みんつど』のお時間です。お久しぶりです、編集長の天地成行（てんち・なりゆき）です。みなさんお元気でしょうか？

北九州市のスマホカメラ担当のKさん。この間、山口県周南市にきてくれまして、久しぶりに旧交を温めました。彼とは1990年代に島根大学農学部地域開発科学科時代の同級生という間柄で、長い付き合いになります。お互いに人生の「苦味」「うま味」をあてにお酒を飲むことができとてもうれしかったです。

さて、そんな彼が大分県中津市の耶馬溪の写真を数枚おくってくれました。その中で、禅海和尚が享保の時代

に人馬の行き来が、岸壁の鉄の鎖で命を多く落としていた当地を訪れ、托鉢勧請しそのお金で石工を雇い、なんと三十年かけてノミと槌（つち）だけで洞門（トンネル）を掘ったのです。表紙はその写真。Kさんはいたく感じ入ったことでしょう。この写真での山国川はとても穏やかな表情をみせています。実はこの地は、徳山市立岐山小学校（当時：きさん、とよみす）6年2組の天地成行少年も修学旅行で訪れました。思い出がよぎりました。ありがとうKさん。中津耶馬溪観光協会HP（<https://nakatsuyaba.com/pages/114/>）

さて、今回のみんつどは四ページだてでお届けします。一人三役脳内会話「天地成行あり方委員会」冊子を山口県障害者芸術文化祭に出品、母と息子の「8050クッキングなどをお届けします。それでははじまります。

一人三役脳内会話「天地成行あり方委員会」冊子

山口県障害者芸術文化祭文芸部門に出品しました

無量で目頭が熱くなります。

天地成行C：まてまてーい。

天地成行C：よっしゃー、わしらの三年近くに及ぶ脳内会話を冊子にして、山口県障害者芸術文化祭に出したどー、どうこーい。

こーい！

天地成行B：まあまあ、そんなこと言わずいきましよう。プロセスの方が尊いではないですか。三人で打ち上げでいいはないでしょうか？

天地成行C：むむー、まあ今回はBのいうことをきこうか。

天地成行A、B：おつ、ようやくCさんが成長したかもー。（結果をお楽しみに）

ミニコミ誌『みんつど』から産まれた人気コンテンツの、一人三役脳内会話「天地成行あり方委員会」をこのほど、山口県障害者芸術文化祭の文芸部門に出品しました。これにあたり左のように冊子にいたしました。制作にあたっては安溪遊地さん（山口県立大学名誉教授、生物文化多様性研究所）の多大なるご協力を賜りました。まことにありがとうございました。それから寄稿を下関市在住の塩見直紀さん（半農半X提唱者、総務省地域力創造アドバイザー）に書いていただきました。ありがとうございました。少し、Cさんが言いたいたことがあるそうなので書いてみましょう。めんどくさいことをいうかもしれませんので適当に（笑）

こころとからだと御縁を大切に

みんつど

一人三役脳内会話「天地成行あり方委員会」の巻



今回の一人三役脳内会話「天地成行あり方委員会」冊子の裏紙と表紙の裏紙（阿東つばめ農園記事含む）

たべへは命を、だて健康・まわりまわって地域の元気




この冊子は、今年も「みんつど」文芸部門から出品されています。この冊子は、山口県立大学名誉教授、生物文化多様性研究所の安溪遊地さん、総務省地域力創造アドバイザーの塩見直紀さん、そして山口県立大学の学生さんたちによって制作されました。この冊子は、山口県立大学の学生さんたちによって制作されました。この冊子は、山口県立大学の学生さんたちによって制作されました。

阿東つばめ農園からのお知らせ

阿東つばめ農園は、山口県下関市阿東町にあり、野菜、果物、花などを栽培しています。今年も「みんつど」文芸部門から出品されています。この冊子は、山口県立大学名誉教授、生物文化多様性研究所の安溪遊地さん、総務省地域力創造アドバイザーの塩見直紀さん、そして山口県立大学の学生さんたちによって制作されました。この冊子は、山口県立大学の学生さんたちによって制作されました。この冊子は、山口県立大学の学生さんたちによって制作されました。

母と息子の「8050クッキング」

noteで連載中です



みんつど
53号

お久しぶりで ぽみ (53) んなせい!

原稿募集: tenchi2020@outlook.jp

【俳句甲子園にいつてき
ました】

八月に松山市で開かれ
た俳句甲子園に行つてき
ました。統合失調感情障



三津浜港の正岡子規の句碑と山頭火最後の庵・一草庵

害という、なかなか面倒
くさい障がい特性で、当
日早朝に「いくど」と決
め、朝一で向かいました。
フェリーで三津浜港へ。
タクシー運転手や山頭火
さんの終焉の一草庵とそ
こでの、道後温泉の人力
車を引いておられる有名
な、くるまや松五郎さん
との出会い、島根大時代
の同級生の西村武司・愛
媛大農学部准教授にラン
チをおごっていたいた、
という流れでございまし
た。

「天に地に鵲の尾の触
れずあり」

(学習院女子
高等科・本間
まどか)

最優秀句。こ
の句に、わた
し・天地成行
はこう切り返
します。季語
とかまったく
無視です。

「そういえば
ふれてない
のも つらい

です」

(天地成行)

鵲(セキレイ)の尾が、
天にも地にも触れていな
い。その浮遊感に、わた
しは「ふれられないこと
のつらさ」を重ねました。
語りとは、ふれること。
だから、これからも天地
成行は語るのです。

◇ ◇ ◇

【龍神様にふれたいと周
南市八代の末武川上流調
査へ】

周南市八代は冬に毎年
ツルが本州で唯一飛来し
てきて越冬しますが、そ
の地はまた下松市と周南
市の境を流れる末武川の
水源地でもあります。別
名は荒神川。龍神様とも
つながる川と伝説を立て
た天地成行はこの夏に数
編、龍神様に関するエッ
セイを書いたんです。

それはnoteで読んでい
ただきたいと思うのです
が、瀬田農園では、なん



と農園主さんが島根大学
農学部先輩だというこ
とがわかりびっくり。お
会いすることはできませ
んでしたが、これはまた
御縁が広がりました。リ
ンゴも周南市でとれるこ
と、それから「つがる」
より早い品種があること
もまた学ばせていただき
ました。

八代では、あるおばあ
ちゃんの笑顔に惹かれま
した。写真。わたしのお
なかを「ぼーん」と鳴
らすと「まあ、いい音」
とにこり。自分のお腹で
笑っていただけでうれし
い天地でした。

夏には首にキュウリでひんやり

こころとからだの御縁を大切に、
天地成行でした(モデルは母)

